

会報

63号



函館の歴史的風土を守る会会報

No.63 H11. 8.26

発行所 函館の歴史的風土を守る会

事務局 函館市五稜郭町43-9

五稜郭タワー株式会社(両角)

電話(0138)51-4785

編集 れきふ編集部

《 函館の未来を考える部会 》 活動骨子決まる

去る8月19日、第1回月例会で「函館の未来を考える部会」(石井 満部会長)の今年度行動計画案審議、満場一致で了承され、いよいよ本格的な活動を展開することになった。前回の部会で、各部員より提起された多くの意見を整理して次のような事業が打ち出された。

- 1) 旧(株)北海道漁業公社(大手町5の1)＝個人所有＝の復元保存の手だてを考える。
- 2) 9月4日 9:30～(約2～3時間)緊急に「保存対策」を検討するための見学会に市民参加を呼びかけ、約30人規模で実施する。コースとして、北海道漁業公社・函館市末広町市分庁舎・函館検疫所台町措置場・旧ロシア領事館・旧函館西警察署・金森ビル
- 3) 9月6日 10:00～ 函館市行政と会員と懇談会(約15人)
- 4) 10月下旬(予定) 講演会 函館の朽ち果てようとしている歴史的な建造物の現状について

家族で大好きな函館を撮る。市電によるスタンプラリー、写真コンテスト

テーマ 「人と市電と町並みと」

市電を使い、スタンプラリーしながら好きな場所で、町並みや建物の写真を撮り、楽しみながら函館の街の良さを再発見しましょう。

表記事業が当会及びチンチン電車を走らせよう会・函館夢レイルクラブ・函館市交通局と共催で、冬休中の行事としての実施を見込んでいる。宇野部会長のもとで計画され、概要もまとまりその細部について、ツメの作業が進められています。応募〆切が平成12年1月22日。応募作品展を開催して、入賞者表彰式を2月の本会チャリティーパーティーの会場で行う計画です。

■ 後援 函館写真カメラ商連合会・函館国際観光協会・函館国際コンベンション協会
北海道新聞社・函館新聞社・読売新聞社・毎日新聞社・朝日新聞社
NHK・HBC

函館市・函館市教育委員会・函館市交通局

■ 協賛 カラー広告電車各社・函館牛乳・五稜郭タワー・函館ロープウエー

■ 『函館山（旧陸軍要塞）の勉強会及び見学会』のご案内 函館の歴史的風土を守る会主催

9月25日（土）14:00～勉強会 女性センター（東川町）

研究発表1「函館要塞の100年 ―その知られざる軌跡―

井潤 裕氏（北海道大学建築史意匠学研究室博士課程3年）

研究発表2「汐首岬砲台」

富岡 由夫氏（函館産業遺産研究会会長）

9月26日（日）9:00～見学会 函館山登山口市管理事務所集合

会費 勉強会500円（資料・その他）・見学会500円（実費）

申込先 電話 56-0856（浜島）

■ 『箱館奉行所復元促進期成会総会』終わる。

7月26日午後1時30分 商工会議所で期成会（松本寅之会長）の総会が開かれ10年度決算、11年度予算が決定された。市教委では平成6年度「特別史跡五稜郭保存整備委員会」を設置した。平成9年度、函館市一般予算に調査費が計上されており、平成11年度中に「箱館奉行所復元構想」が策定されることになっていると云う。

辰戦争終結130周年記念 特別展「戊辰戦争―鳥羽・伏見から箱館まで―
8月3日より 9月26日 於 五稜郭分館

■ 『きれいな街づくり市民フォーラム』9月4日 13:30～16:20 於 国際ホテル

平成5年5月30日「函館市ごみの散乱防止条例」が施行されたのを機に6回にわたって「環境美化inサミット」の名称を廃し、『きれいな街づくり市民フォーラム』と変更した。今年度は函館大学助教授 田部井英夫氏の「生活環境とリサイクル ―市民生活の場から考える―」記念講演のあと、パネリスト6人による討論会を予定している。

■ 『開港5都市景観まちづくり会議神戸大会』のご案内

10月9日（土）午後2時 開会・総会・レセプション

10月10日（日）午前（分科会） 午後（パネルディスカッション）

10月11日（月）10時 全体会議・大会アピール・閉会

※ 平成5年より行われた「開港5都市景観会議」が一巡したことにより、表記の様に名称変更されて継続されることになりました。尚、出席は8月27日〆切です。

■ 『文化財散歩』 ― 青森・秋田の文化財探訪 ―

北海道文化財保護協会主催の文化財探訪が10月14日～10月17日（札幌発）で行われる。亀ヶ岡遺跡・木造町資料館・大湯環状列石・弘前城・久保田城跡・角館武家屋敷等 普段あまり見られない多くの史跡を探訪する。

JR利用 50,000円 航空利用 75,000円 申込〆切 8月31日

■ 『遺跡めぐり』 バス研修に11名参加

南北海道考古学情報交換会が主管した今年度のバス研修会は去る8月21日、大型バス2台を連ねて行われました。当会関係者11人参加した。8時30分にハーバービューホテル前を出発、大船C遺跡（南茅部町）を見学、昆布館（七飯町）に立ち寄った後、木古内町の公民館で昼食。札苅遺跡出土品を見学して徒歩で整理棟の釜谷・新道4遺跡の出土品を見学した。猛暑の中を海拔35メートルの海岸段丘上の泉沢2遺跡の現地説明を受けた。午後3時30分函館駅前に到着解散した。

散策で古建築など学ぶ

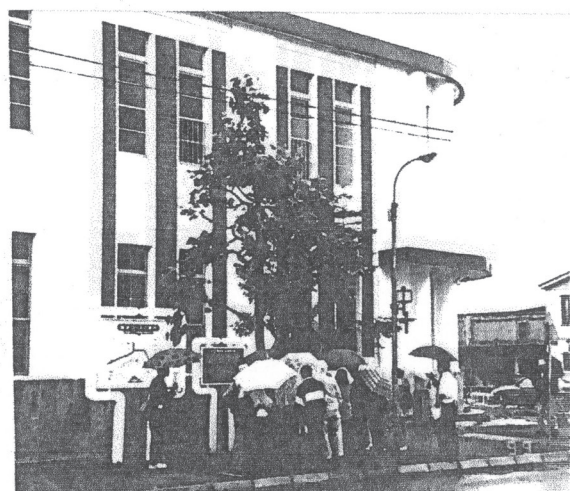
--- 歴風会 ウォッチング ---

函館市西部の伝統的な建築物を見て歩き学ぶ、恒例の「歴風会ウォッチング」が、7月3日午後1時から行われました。大野、上磯町など一般市民を含む30人が参加、歴史的な風土が育んだ建造物が醸し出す町並みを散策しながら、古建築の知識や歴史を学習することが出来ました。（一行が訪ねた主な順は以下のとおりです）

【旧西警察署】 大正15(1926)年建設
小雨が降る大町・旧西警前で集合。この建物の外観保全改修工事が昨年暮れに終了したが、内部は手付かずであるという会員からの説明でした。建物はもとよりこの場所が江戸時代からの“港を物語る”由緒ある地であることが案内板で知れます。

松前藩の貿易指定港で沖の口番所があり船舶・積荷旅人から税金を徴収。明治初め海官所になり後、海関所、船改所、水上警察署、西警察署と変遷。現在の建物は昭和59年まで使用後、市に寄贈されたが、再利用が明らかにされていません。

【旧小林写真館】 明治40(1907)年建設
大町の旧写真館は、札幌・開拓の村に移設の話もできたことがあった。写真術発祥の函館で、道内に現存する最古の写真館。当初は2階屋根が採光のガラス張りでバルコニーもあった。復元した看板は英文で「フォトグラフィックスタジオ」と、往時のハイカラぶりがうかがえる。外国人や啄木も撮影したそうです。



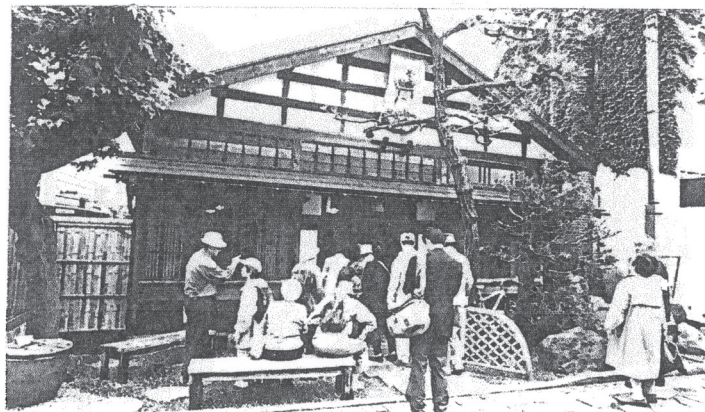
①道内初の郵便役所（明治5年）の「郵便発祥の地」碑を見る一行＝旧西警前で



②大火で焼失後に再建、2階の左が写場で写真館の道具は、旧公会堂内に展示してる。



③電車通り側に向いた、2階屋根瓦の復元作業現場を熱心に覗き込む会員ら＝現郷土資料館で



④団体観光客定番の古い町並みコースに彩りを添えたりリニューアルは、保存の好例になりそう＝港が丘通で

【旧金森洋物館】 明治13(1880)年建設、道文化財
昨年9月のウォッチングに引き続き、今回も2カ年計画で復元工事中の現場を、休日にもかかわらず見学させていただきました。

文化財の修復等を専門にしている技術者の中田尚子さんのガイドで2階の屋根瓦をふく複雑な工程を高い足場も気にもせず間近かで見詰め、ヘルメット姿の会員らは100年以上も昔の建築技術に感心していました。壁面のレンガに明治7, 8, 9年「函館製造」の刻印があり、これらの修復では耐震、重力などに対応できるように最新の土木技術が投入され耐久性も計られるそうです。

【花井家・お休み所菊泉】＝大正時代建設

元町の港が丘通（ハリストス正教会から公会堂へと向う道路）の海側の純和風の平屋建て。

作り酒屋さんの住宅だったと言われ昨年、当会に活用の方法を相談されていたがその後、外壁の補修や玄関前庭の整備などがされて、7月に店をオープンしました。今回は、開店前の同家を見学してもらい、海を見下ろす縁側で由緒のあるという古い絵画や骨董品の説明を受けました。

この日のウォッチングはここで解散となりました。小林写真館に行く頃から雨もやみ、所要時間3時間足らずでしたが手頃な見学路でした。（編集部）

ほどよい高さを持つ函館山からの眺望は、両側に海を抱き、くびれた陸繋地を経て広やかな家並みへと続く。この地形こそが函館の景観の基本である。

函館山麓に軒を連ねる民家の中には、一階は和風、二階が洋風といった和洋折衷の建物があり、独特な西洋臭さがある。これは札幌、小樽では見かけない風景であり、幕末の開港以来、滔々たる勢いで打ち寄せた洋風文化を臆することなく吸収し、さらに自己流に作り変えていった函館という町の証左であるかのようだ。

函館の顔といわれるロシア正教会(ハリストス)の設計は河村伊蔵だが、東京大学の藤森教授の言を借りると、「見よう見まねの大傑作」とのこと。一方、ハリストスと同じく国指定重要文化財の旧函館区公会堂の建築様式は擬洋風で、洋風をまねた名建築となり、このような和洋折衷の建物が昔日の函館の面影を彷彿させる。

昭和53年、江戸中期から明治の初めまで蝦夷の心臓部であった箱館奉行所の跡に建つ旧・北海道庁函館支庁舎を、札幌近郊の野外博物館へ移設する話がもちあがった。本来、歴史的建物はゆかりの地で保存活用するべきであり、移設は緊急避難の時だけと考えていた私は、直ちに北海道新聞に移設取り止めを求める意見を投書した。

日本の町並みを歩く

北海道函館市

文田尻聡子

初めは市民の関心も薄かったが、「箱館戦争で住民が迷惑をこうむり不幸な目にあった場所が箱館奉行所であり、その跡の行政の建物は移転するべきだ」という反対意見も出るなど、次第に世論が湧き、移設の是非が問われた。翌54年、「函館の歴史的風土を守る会(略称・歴風会)」が設立され、市民の理解を求めて運動を展開した結果、問題の建物は現地で保存、修復することに落ち着き、ほどなく北海道有形文化財に指定された。

その後、行政と市民の協力、全国町並み保存連盟等の支援で、平成元年に市内の14.5ヘクタールが重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けた。道内第1号、全国29番目、「歴風会」発足10年目の快挙だ。この数年前まで、函館では「町並み」という言葉自体、市民権を持っていなかったが、今や市民は我が町並みへ限りない愛情と自負を持ち、次代を担う人々が知恵と行動力を駆使し、歴史を活かした街づくりに汗を流している。

そして、20年の歴史を重ねた「歴風会」の運動の一つに「歴風文化賞」がある。これは歴史的建造物所有者に対して贈る「貴方の建物は素晴らしい」というラブコールであり、長年にわたる保存の労苦への感謝のメッセージで、顕彰した建物は60余件に及んでいる。

全国町並み保存連盟は、21世紀の「ふるさとづくり」をめざすボランティア団体です。(☎03-3595-0731)

全国町並み保存連盟副会長



会務報告

- 6/16 第3回 運営委員会
- 6/28 第1回 「未来を考える部会」
- 7/3 れきふう「ウオッチング」
- 7/21 第4回 運営委員会
- 8/17 第2回 「未来を考える部会」
- 8/19 第1回 月例会
- 9/4 (予定) 見学会 9:30 市役所右横駐車場スタート
- 9/6 (予定) 函館市との懇談会
- 9/9 (予定) 運営委員会 於:函工(柏ヶ丘ホール)
- 9/16 (予定) 月例会 於:函工(柏ヶ丘ホール)

受信一覧

- 7/10 全国町並み「連盟だより」11号12号
- 7/15 渡島コミュニティ 第48号
- 8/3 渡島コミュニティ運動委員会より
- 8/10 大野ぶんぽけん 第83号
- 8/11 荒木会員より著書「木古内の街と子どもたち」寄贈

第22回 全国町並みゼミ 白杵大会

テーマ「まちなみ・環境・まちづくり」

今ふたたび白杵から

10月8日(金)～日(日) 於:大分県白杵市
主催 全国町並み保存連盟(東京西新橋)

☆個人会員拡大のお願い 入会金 1,000 円
年会費 5,000 円 平成11年7月31日現在、
団体会員 70、個人会員 329 人

☆田尻聡子氏は6月11日町並み連盟夏季
幹事会で副会長の要職につき、1人でも
多くの函館会員の参加を希望しています